

## 冠動脈疾患の遺伝的リスクが高くても生活習慣で抑制できる

遺伝的要因と生活習慣の要因はともに冠動脈疾患のリスクに関係している。遺伝的リスクが高い場合に、健康的な生活習慣によってどのくらいリスクが相殺されるのかは不明である。本研究では、遺伝子リスクを定量化し、生活習慣因子との関連について検討した。

3件の前向きコホート研究（総被験者数 51,425 例）と1件の横断研究（4,260 例）の計4件の研究データを用いて、冠動脈疾患の遺伝子リスクを定量化した。また、4つの健康的な生活習慣因子（現在喫煙なし、肥満なし、定期的な運動、健康的な食生活）からなる評価法によって健康的な生活習慣を遵守しているかを判定した。その結果、冠動脈イベント発症の相対リスクは、低遺伝子リスク群と比較して、高遺伝子リスク群で91%高かった（ハザード比 1.91）。また、生活習慣が良い（健康的な生活習慣因子4つのうち3つ以上遵守）群は、悪い（健康的な生活習慣因子の遵守が1つ以下）群と比較して、遺伝子リスクに関係なく冠動脈イベント発症のリスクが低かった。遺伝子リスクが高い群においては、生活習慣が良い群では、悪い群と比較して冠動脈イベント発症の相対リスクが46%低かった（ハザード比 0.54）。

したがって、遺伝的要因と生活習慣要因は、それぞれ独立して冠動脈疾患の感受性と関連していることが示された。遺伝子リスクが高くとも、良い生活習慣により冠動脈疾患の相対リスクが50%近く低減することも明らかとなった。

出典：New England Journal of Medicine. Published online Nov 13, 2016;

doi: 10.1056/NEJMoa1605086